

Neues in Nara

Nr. 78
2022年1月28日

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)



編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事予定

第27回シュタムティッシュ

2月6日(日)大安寺「獅子吼殿」にて開催します。今回は担当の水野恵理子理事の発案により、従来と雰囲気を変えて、「会員相互の自由闊達な談論、懇親を図る機会」とすることになりました。

多くの皆様のご参加をお待ちしています(別送案内状参照願います)。

●行事報告

1. ドイツ映画鑑賞会

10月24日大安寺「獅子吼殿」にて、ドイツ映画「はじめてのおもてなし」(原題名:Willkommen bei den Hartmanns)の鑑賞会が開催され、難民受け入れを巡っての家族とまわりの人たちの反応がコミックに描かれ、十分に楽しませるものであった。会員13名が参加した。

1. 聖徳太子1400年御遠忌記念行事

11月3日「慈しみと思いやりのコンサート」が大安寺にて開催され、第一部の「大安寺と聖徳太子」のお話と音楽が「獅子吼殿」で、第二部「慈しみと思いやりのコンサート」が同境内で開催され、多くの参加者で賑わった。当会から8名の参加があった。

2. 当会初代会長河野清晃師ご逝去20年周年

「法要とコンサートの集い」

12月5日大安寺「獅子吼殿」にて開催され、大阪ドイツ総領事館から Uwe Meerkötter 首席領事が参加頂いたほか、Nara Stug Club, Klub Zukunft、会員あわせて33名が参加、河野良文会長による前会長河野清晃師の法要、映像による「当会20年の歩み」紹介、河野会長挨拶があり、ピアノ独奏・ギター独奏・ソプラノ独唱のコンサートがしめやかに催された。



3. 2021年度第一回ドイツ料理教室

12月12日生涯学習センターにて開催され、9名が参加、クリスマス料理で賑わった。

4. 関西地区日独協会合同新年会

1月7日(金)「アサヒスーパードライ梅田」にて開催された。

●会員だより

関口行弘さんから

「私とドイツワイン」

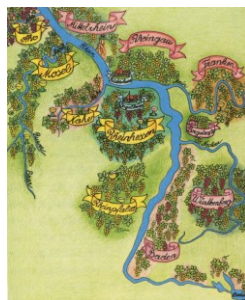
1975年、私は初めての海外旅行でドイツに行きました。勤務先の会社の研修旅行で約2週間滞在しましたが、ほとんど観光旅行で主要な都市を見学しました。その時にドイツ人は、昼食には必ずアルコールを水代わりに飲んでいたので記憶しています。アルコールに弱い私は、もっぱらアップルザフト(リンゴジュース)を常飲していました。

ビール祭りで有名なミュンヘンに行った時には、大きなビール腹のグラスを傾けて飲んでいる姿の人影が街角で多く見られ、ドイツと言えばビールで、塩辛いビールや炭酸入りのビールなど豊富な種類のビールが溢れていました。

しかし、私はやはり日本のビールの方が美味しいと感じていたのですが、上司からドイツワインを勧められ飲んだのが食後の白ワインのアウスレーゼで大変甘くて美味しかったのです。以後、ドイツワインのファンになって美味しいワインの産地の品種を取り寄せては試飲していました。

その後、結婚をして子供が生まれた年のワインを子供たちの記念にと購入して、子供たちが結婚した時に記念に式場でプレゼントをしました。それぞれ3人の子供たちに1本ずつ。その時、披露宴の来賓からは『素晴らしいロマンのあるお父さんですね』と大いに受けました。また他にも、特別な一品があります。それは画家の故白髪一雄(具体美術協会の重鎮)の作品をラベルに使用したドイツワインです。もう50年ほど経っていますが試飲はまだです。

丹波播磨路芸術の森 オーナー
一の宮巡拝会 相談役
画家・アートディレクター



ドイツワイン地図



白髪さんのワインラベル

会員の土井通靖さんから寄稿頂きました。

「行きはよいよい、帰りは怖いーコロナ禍での帰国」

2021年7月ドイツは突然、日本からの旅行者をコロナワクチン接種済であれば問題なく受け入れることになった。私と妻はこのチャンスを逃すまいと、ワクチン接種が終わって2週間経過してからの飛行機を慌てて予約して、まだ日本ではオリンピックが開催されていた8月6日に、ドイツに向けて出発しました。私はドイツから日本に戻って来て約三十年経ちますが、今回初めて1か月以上のドイツ滞在でした。言うまでもなく家族、旧友や恩師に再会できたのと、とてもいい天候に恵まれ素晴らしい時間を過ごすことができました。その時の事は、いずれまた報告をさせてもらってもいいんですが、今日は日本に帰るに当たり人生で初めて経験した事について、奈良日独協会の皆様に読んでもらうため投稿しました。

ドイツ出発72時間前以内にコロナウイルスのPCR検査をし、結果は日本の厚生労働省が指定している検査証明書に記載されている事となっており、自分でプリントアウトして結果を記入してもらうのですが、現在ドイツでは結果はメールで送られそれが公に通用しています。それなので検査に行きメールが届けばそれで終わりなのですが、日本に帰国する場合には、もう一度結果が出てから準備した用紙に記入してもらうために、検査場まで出向くことになりました。

結果は陰性で、日本行きの飛行機に搭乗できましたが残念なことに、コロナ禍でルフトハンザの関空行きの便が運航しておらず、到着が羽田空港になります。日本に着く前に接触確認アプリ、位置情報の保存と提示用のアプリのダウンロード、「入国後の14日間公共交通機関不使用、自宅待機、位置情報の保存、保健所等からの位置情報を提供します」という誓約書を書いておきます。

そして羽田に到着後、ゲートから歩いて何分も離れた場所でアプリの確認、誓約書の確認と提出、それとコロナPCR検査を受け結果が出るまで待ち、陰性だったのでようやく入国審査と税関を済ませ、予約をしていたレンタカー店に連絡して、送迎用の車で迎えに来てもらい、手続きをして奈良に向かい運転しなのですが、なんせ飛行機で11時間、入国するまで2時間程度、疲れ切っている途中で仮眠を取りながら漸くの思いで家にたどり着きました。

翌日レンタカーを返し、14日間の自宅待機が始まりました。食料品に関しては、嬉しいことに友人や知人が差し入れて来てくれました。毎日1回アプリを使い健康状態の報告、2回任意の時間に位置情報の提供を求められるのと、1回はビデオ電話で居場所の確認がありましたので、常に携帯電話を近くに置きすぐに対応できるようにしていました。14日間も家に閉じ込められることで、運動量が減るとともに精神的なストレスもどんどん溜まっていきます。それに時差ボケがなかなか戻らず大変でした。一つだけ良いことがありました。それは家の片付けをすることで、家の中がかなり整理出来ました。

今考えると、公共交通機関は使用してはいけないけど、レンタカー会社の送迎車利用、手続き時店員の方との接触これは許されている、おかしくありませんか？ 1日も早くパンデミーが収まり、自由にドイツに行ける日が来るのを願っています。



私とドイツの家族たち



私と家内